

2010 年度 小委員会活動成果報告

(2011 年 2 月 10 日作成)

小委員会名	視環境評価小委員会	主 査 名：明石行生 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (光環境運営委員会)	委員長名：井上勝夫 主 査 名：佐藤仁人
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・本小委員会は、安全・快適・健康な視環境を維持しながらシステムのエネルギー変換効率を高めるために、これらの側面から視環境を構成するシステム効率を定量的に測定する技術の構築と実用化を支援することを目的とする。 ・本年度は、WG を設置することを目的とした。 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有 (建築雑誌で公募実施済み)	
	明石行生 (福井大学)、秋月有紀 (富山大学)、井上容子 (奈良女子大学)、岩田三千子 (摂南大学)、奥田紫乃 (同志社女子大学)、加藤美佳 (関西大学)、佐藤隆二 (大阪工業大学)、土井正 (大阪市立大学)、中村芳樹 (東京工業大学)、原直也 (関西大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薄明視測光技術の実環境への適用 (WG1)：薄明視測光技術 (国際照明委員会などで理論は確立済み) を実環境に応用する際の適用範囲を明確にする。それを道路・街路の光環境設計に応用する方法を、青色防犯照明を例として、夜間の運転などの視作業性、空間の明るさ感、色の見えを配慮しながら紹介する。研究成果を学術論文として投稿する。 2. 複雑な輝度分布をもつ視野における対象物の見え方の定量化 (WG2)：複雑な輝度分布の視野における順応状態をモデル化する。そのモデルにより複雑な輝度分布の視野上の対象物の視認性、明るさ、グレアを定量的に評価する技術を開発する。研究成果を学術論文として投稿することにより、オーソライズするとともに、評価技術を実務者にもわかりやすい形で表現する方法を確立する。 3. 明視環境設計 (WG3)：視環境設計のための資料として、個人の視覚特性を考慮した文章の読みやすさと明視 3 要素との関係を整備する。 	
2010 年度予算	58,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (第 1 回 5 月 28 日(金)、第 2 回 8 月 31 日(金)、第 3 回 11 月 22 日(月)、第 4 回 (3 月 2 日に開催予定))
刊行物 (シンポジウム資料等除)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 計画通り、各 WG において、実験・討議など実質的な活動を進めた。 2. 計画にはなかったが、次年度建築学会大会での OS に LED 照明を小委員会から提案し、採択された。3 月 2 日の会議では OS の具体的内容を討議する。
委員会活動の問題点・課題	1. 特になし

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。